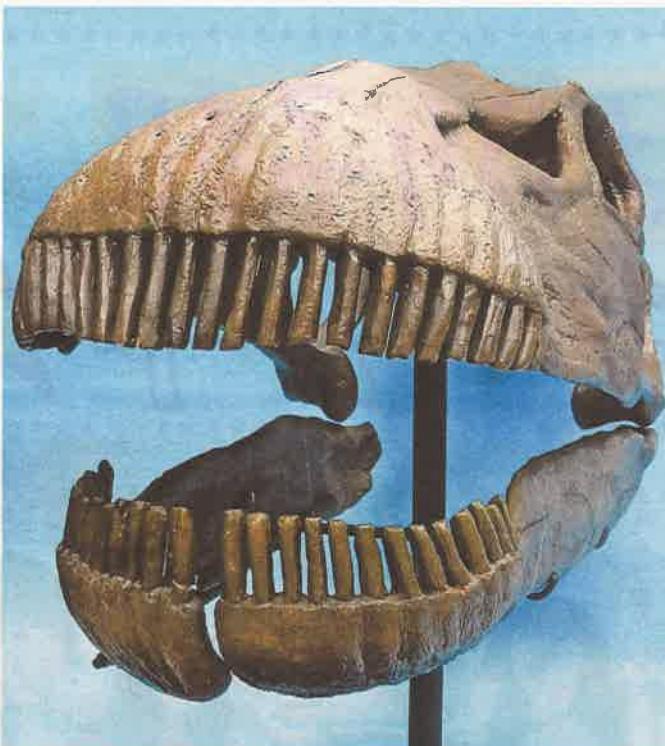


特集



前から見たアパトサウルスの頭。鉛筆のような歯が並んでいます。これで葉っぱをこそげ取っていました。どうでこの顔。なんだか笑っているみたいに見えませんか?

「大きい」とです
恐竜のイメージを聞くとほとんどの人がこう答えます。

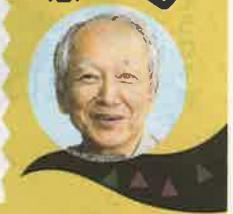
長い間、そうした恐竜のイメージ代表だったのが「アパトサウルス」です。全長は二十数メートル以上。体は大きいのですが、頭はとても小さいのがこの仲間の特徴です。岡山理科大学の展示室にある頭の骨の長さは83センチしかありません。

好きだったのは木の葉。葉のついた木の枝を口に含み、葉っぱをブリブリブリツと枝からこそげ取りました。頭を前に見ると、鉛筆のような細長い歯が並んでいますが、そんな食べ方に適した歯です。でも、葉っぱを口の中に入れても、この歯で

巨体のわりに頭が小さいアパトサウルス

岡山理科大教授・石垣忍

恐竜調査隊が行く



まめ豆ち知しき識

アパトサウルス昔は「プロントサウルス」と呼ばれていました。最初の組み上げ骨格では、別の恐竜の頭が間違ってつけられたために、間違った復元画が一般に知られました。最近はアパトサウルスとプロントサウルスの両方の属名が復活するなど、何かと話題が多い恐竜です。1億5000万年前頃の北アメリカにすんでいました。

葉をこそげ取って食べる



横から見たアパトサウルスの頭。ちなみに脳は、私が指さしている先にあり、大きさは私の脳の10分の1ほどしかありません



いなかの中にあったと考えられる石。すべすべしています

はすりつぶせません。それでこのタイプの恐竜たちは石ころを飲み込み、おなかの中で葉っぱと混ぜ合わせてすりつぶしていくようです。全身骨骼を発掘しているとおなかのあたりから丸くてすり減った石ころがたくさん出てくることがあるのです。

でも「ご飯をよくかみなさい」と家族から怒られている皆さん。かむのがイヤだからと言

つて、決して石ころは飲み込まないでくださいね。